



にじいろレター



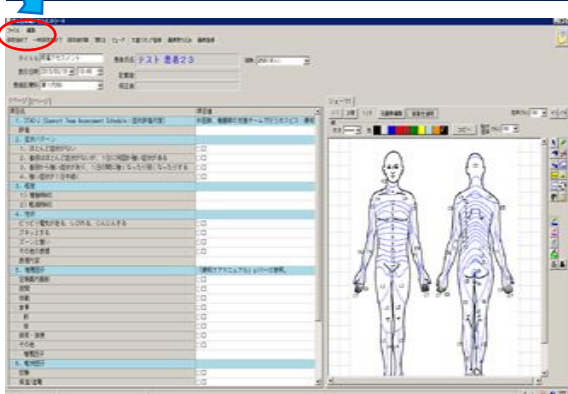
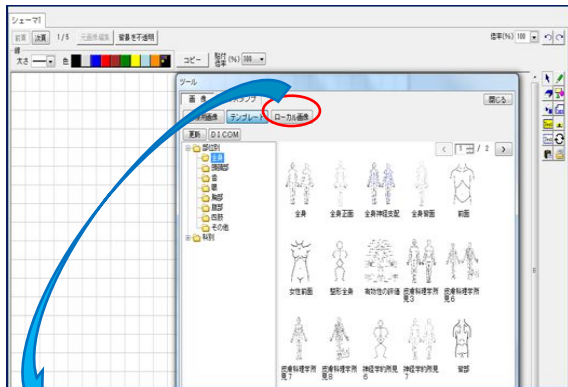
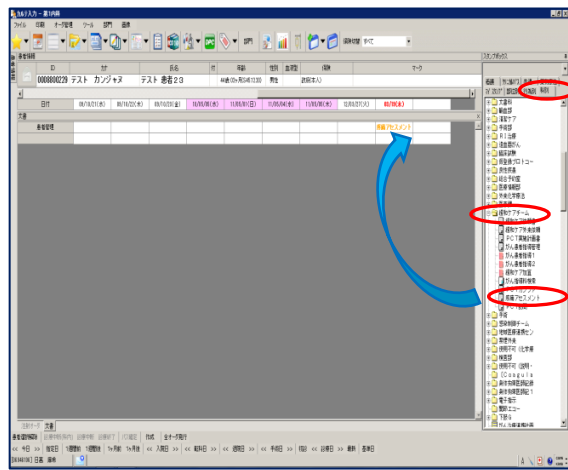
NO. 21

今回は、緩和ケア・がん性疼痛看護分野、がん化学療法看護分野の認定看護師からのお知らせです。

緩和ケア：日高麻希 がん性疼痛看護：山下智子

～「がん性疼痛アセスメントシート」を活用しよう！～

がん性疼痛を抱える患者さんをしっかりとアセスメントし、緩和を図ることは QOL の向上につながります。「がん性疼痛アセスメントシート」を使用して、がん性疼痛緩和状況を把握し、治療・ケアにつなげましょう！



がん性疼痛アセスメントシート

- ①カルテを開く
- ②スタンプボックス⇒「科別」⇒「緩和ケアチーム」を選択する
- ③「がん性疼痛アセスメントシート」をドラッグ&ドロップする
- ④項目ごとに、患者さんの状態や疼痛、使用薬剤について入力する

※記載方法は、CUMNAVI トップ画面「緩和ケアチームからのお知らせ」を参照してください。

★ワンポイントアドバイス★

【シェーマの記載方法】

疼痛が出現している部位をシェーマで記載する場合は、右段一番下のイメージをクリックするとテンプレートが表示され、部位を選択することができます。

～実際に使用した病棟看護師から

こんな声が聞かれています～

- ・スタッフが同じ視点で介入できた
- ・疼痛が増強するタイミングが分かり、レスキュードーズを効果的に使用したことで疼痛緩和が図れた
- ・気持ちのつらさについて話がしやすくなった
- ・医師へ疼痛コントロールの現状について報告し、薬剤変更することで疼痛緩和が図れた

～経口抗がん剤を安全に取り扱おう～


2014年5月に厚生労働省から「発がん性等を有する化学物質を含有する抗がん剤等に対する曝露防止対策について」の通達を受け、今年7月に待望の「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」が発刊されました。新たな抗がん剤曝露対策の動きの中から、今回は健康被害の予防に着目し、最新知見の一部をお伝えしたいと思います。

抗がん剤に曝露すると、急性症状や長期的な影響が出現することがあります。



- 【急性症状】皮膚炎、部分的脱毛、頭痛、めまい、悪心・嘔吐、アレルギー性喘息、眼球炎症 など
- 【長期的な影響】発がん性、早産、自然流産、低出生体重児 など

経口抗がん剤は、医療者だけではなく患者さんや家族も取り扱うことがあります。健康被害を最小限にするための対策が必要です。

	看護師が管理する場合	患者が管理する場合	在宅で家族が管理する場合
準備	石鹸と流水で手洗いをする（手指の清潔を保持する）		
薬を取り出す	（経口抗がん剤は、可能な限り患者自身に取り扱ってもらう）		
	<ul style="list-style-type: none"> 錠剤に触れないようにニトリル製の手袋をして開封する 散剤の場合は薬を吸入しないようにマスクを着用し、顔から離れた所で開封する 	<ul style="list-style-type: none"> 薬に直接触れないように、カップやティッシュの上に出す 	<ul style="list-style-type: none"> 錠剤に触れないよう手袋を着用して開封する（在宅の場合は、介護用手袋でも可） 散剤の場合は薬を吸入しないようにマスクを着用し、顔から離れた所で開封する
薬の包装を捨てる	<ul style="list-style-type: none"> 外装はチャック付きのビニール袋（ユニパックなど）に入れ、専用のボックスまたは感染ごみ入れに廃棄する 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや高齢者、免疫力の低下した人など、他の人が直接手で触れないように工夫する（外装をビニール袋に入れて口を閉じるなど） その後、可燃ごみとして廃棄する 	
服用後の注意点	石鹸と流水で手洗いをする 		
薬の管理	<ul style="list-style-type: none"> 他の患者と間違わないよう個別に保管する 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや高齢者の手の届かない所に保管する ペットなどが触れない所で管理する 他の人が間違えて飲まないように注意して保管する 	

正しい曝露対策を行うことで、抗がん剤の取り扱いに伴う健康被害を防ぐことができます。
 明日からの看護実践の中に意識して取り入れ、抗がん剤曝露から体を守りましょう！！